

中谷宇吉郎「中谷宇吉郎書簡」昭和20（1945）年6月6日

拝啓 今回の再度の空襲では渋谷附近にも被害が御座

いました由伝聞、神山の方は如何だったかと御心配申し上げます

当地では二十六日の空襲以来全く東京の情勢が分らず

武見さんの所も教文館、御宅共に戦災を被られたらしく

推察痛心致して居ります。何卒御被害なく御健勝の程

を祈り上げます。申しおくれましたが先夜御伺ひしまして又々

御馳走様に相成り、難有ク御礼申しあげます。帰札致しまして

御懇切な御手紙を頂戴致して居りまして、誠に難有ク存じました。

早速御礼状差上可処、又々苦小牧飛行場に於て昨年

の霧の研究のつづきを開始致しますので、その準備等に迫はれ

失礼致して居りました。今年は愈々霧を消す実験を

始めるので大分御仕掛で御座います。消霧車といふものを

一台試作、近ク出来上りますが、一寸黄帝時代の話のやう

で自分でも果して巧く晴れるかどうか不安に思つて居ります。

ニセコの研究所は愈々五月一日から独立した研究所となつて

発足しましたので唯今拡張と改修を致して居ります。技術院

所管の研究所で陸、海、大学、気象台の綜合した研究

をする所に致度いたしたいいと存じて居ります。多分正規の活動を

続けてゐる研究所としては、日本で最後まで残るものに

なるのではないかと存じて居ります。

今後益々急激に情勢悪化するものと覚悟して、万全

の案を立てて居りますが、「斎彬公言行録」から得た知識が

かういふ時勢になりますと大變役に立つので、感謝致して居ります。

何卒御自愛專一に御健勝の程を祈り上げます。

六月六日

牧野伸顕様

中谷宇吉郎

匆匆

〔封筒〕

札幌市北八条西五丁目

北海道帝国大学

低温科学研究所

中谷宇吉郎

六月六日